

平成26年度 予算概要をお知らせ

「選ばれるまちづくり」を大きく推進

平成26年度の予算の概要をお知らせします

「子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまち・舞鶴」の実現に向け、さまざまな取り組みを進める中、平成27年度は、高速道路網の完成や京都舞鶴港の機能強化により、「人流」「物流」が劇的に変化します。

この最大のチャンスを生かすため、平成26年度を「任んでよし、働いてよし、訪れてよし」の『選ばれるまちづくり』の実現に向けた基礎固めの集大成の年と位置付け、将来に向けた基盤づくりを行うために①「安心のまちづくり」②「活力あるまちづくり」③「市民に役立つ市役づくり」の3つを重点事項として、積極的な予算編成を行いました。

具体的な事業として、①については、天候に左右されず多世代が交流し、楽しく子育てに参加できる子育て交流施設の整備や高齢者の外出支援、子育て支援医療助成では対象を中学生の入院まで拡大②については、「海フェスタ京都」の開催事業や引き揚げの史実の継承と平和の尊さをより広く発信するためユネスコ世界記憶遺産への登録に向けた取り組みのほか、クルーズ客船の寄港の推進や戦略的な観光プロモーションの実施③については、公共施設のあり方検討などの事業を計上しています。詳細は8ページ。

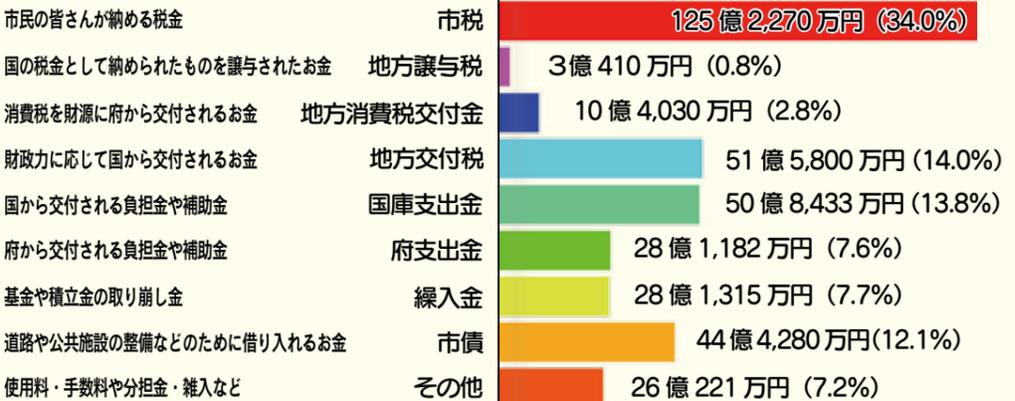
「人の流れ」「物の流れ」が劇的に変化する平成27年度に向けた基礎固めのために…

一般会計 367億7,941万円

歳出



歳入



舞鶴市の予算を家計に例えたら

収入

	26年度	25年度
給料 (市税、使用料、手数料、諸収入などの自主財源)	148億円	158億円
親からの仕送り (地方交付税、地方譲与税、国・府支出金)	148億円	134億円
貯金取り崩し (繰入金、繰越金)	28億円	15億円
ローン借入れ (市債)	44億円	34億円
合計	368億円	341億円

支出

	26年度	25年度
給料を得るために働く人の経費 (人件費)	61億円	56億円
医療費、教育費 (扶助費)	82億円	81億円
ローンの返済 (公債費)	36億円	36億円
光熱水費、通信費、日用品費 (物件費)	48億円	49億円
お小遣い、保険料、町内会費 (補助費)	29億円	26億円
家の増改築・修繕、家具の買替 (普通建設事業費など)	58億円	36億円
子どもへの仕送り (出資金、貸付金、繰出金)	54億円	56億円
貯金 (積立金)	-	1億円
合計	368億円	341億円

基金

区分	26年度末見込み	21年度	増減
一般会計	70億4,107万円	92億5,953万円	△22億1,846万円
特別会計	31億5,253万円	43億5,012万円	△11億9,759万円
合計	101億9,360万円	136億965万円	△34億1,605万円

基金

家庭では家を建てるとき子どもが進学するときなど、大きな出費に備えるために貯金をしますが、市の場合、まちづくりや公共施設の整備など多額の費用が必要な事業や災害などの不測の事態に備えるため「基金」にお金を積み立て、必要なときが来たら取り崩して活用します。

基金と市債の状況

◆基金
本年度は、平成27年度に向けた基礎固めのため、市の貯金にあたる基金の積極的な活用を行いました。
主なものは、将来に向けて積み立てた財政調整積立金から12億2千万円を繰り入れたほか、道路や河川、下水道の整備など、都市・生活基盤整備の推進のために都市開発推進基金を5億円、総合文化会館の長寿命化整備や新設する子育て交流施設の整備に地域の元気臨時交付基金を5億2千万円などです。いずれも、基金の目的に沿って市民サービスの向上やまちづくりの

市債

区分	26年度末見込み	21年度	増減
一般会計	364億5,051万円	321億8,549万円	42億6,502万円
建設地方債	215億4,012万円	221億8,880万円	△6億4,868万円
臨時財政対策債等	149億1,039万円	99億9,669万円	49億1,370万円
特別・企業会計	379億8,794万円	355億5,633万円	24億3,161万円
合計	744億3,845万円	677億4,182万円	66億9,663万円

市債

家庭では家を建てたり車を買ったりするためにお金を借りますが、市でも学校や道路などの整備に多くの費用がかかる場合、市債という借入を行います。この市債には、家庭でのローンや借金と異なり、次のような意味や効果があります。

- 多くの費用を一度で支払おうとすると、その他の必要な市民サービスに影響するため、市債により分割して返済することで負担の平準化が図れます。
- 長期間使用する公共施設などは、市債を借りることで、今の世代のみならずだけでなく、将来その施設を利用する人にも公平に費用負担をしてもらうことができます。
- 市債の中には、返済額の一定割合が国から交付(普通交付税)されるものもあり、市債を借りることで、実質的な負担が少なくなる場合があります。このように、市債は安定した市の財政のためには不可欠なものとなっています。

◆市債
推進のために活用したものです。
舞鶴市の市債(借入金)残高の合計は、一般会計で364億5千万円となり、平成21年度と比較すると42億7千万円の増加となっていますが、そのうち、国によって返済額の全額が手当される臨時財政対策債等が49億1千万円増額する一方、道路整備などの建設事業などのための借入金は6億5千万円減少しています。
平成26年度では、子育て交流施設の整備をはじめ、総合文化会館や消防指令システム、し尿処理施設などの更新整備が集中する年度であるため、平成25年度に比べて借入の予定額は増加しています。

※基金・市債残高の比較数値は、「新たな舞鶴市総合計画」の基準数値である平成21年度の数値を用いています。

特別会計 282億8,658万円

区分	26年度	25年度	増減
国民健康保険事業	91億2,250万円	90億5,996万円	6,254万円
簡易水道事業	6億8,430万円	6億2,258万円	6,172万円
土地建物造成事業	448万円	447万円	1万円
貯木事業	101万円	782万円	△681万円
公設地方卸売市場事業	※ 0円	8,773万円	△8,773万円
下水道事業	47億8,034万円	45億6,589万円	2億1,445万円
駐車場事業	4,534万円	6,917万円	△2,383万円
介護保険事業	86億5,913万円	81億451万円	5億5,462万円
後期高齢者医療事業	11億3,666万円	11億8,479万円	△4,813万円
計	244億3,376万円	237億692万円	7億2,684万円

※公設地方卸売市場事業は平成25年6月末で会計を廃止しました。

区分	26年度	25年度	増減
水道事業	27億4,108万円	28億1,021万円	△6,913万円
病院事業	11億1,174万円	25億8,715万円	△14億7,541万円
計	38億5,282万円	53億9,736万円	△15億4,454万円